巻頭言

真実は何処に？

静岡県でのマダイ放流は、昭和 53 年に榛南海域での 5 千尾を皮切りに始まり、現在は年間約 100 万尾の放流が行なわれています。そして、漁業によるマダイ漁獲量は、マダイ放流とともに増え始め、現在では年間 100 トン前後で安定していて放流効果があると考えられています。マダイは遊漁やプレジャーボートなどでも漁獲されているので、放流効果を正確に知るために漁業以外の漁獲量も知る必要があります。

マダイの遊漁船業による漁獲量は、遊漁標本船のマダイ漁獲量をもとに推定されていて、その量は漁業の 4～5 倍と見積もられてきました。しかし、平成 22 年に、県内全遊漁船を対象にマダイ採捕量のアンケート調査を行なったところ、アンケート調査で求めた漁獲量は、遊漁標本船から求めた漁獲量の約半分という結果が得られました。また、プレジャーボートによる漁獲量は霧に包まれていると言ってもよいでしょう。つまり、遊漁船業やプレジャーボートの漁獲量も含めたトータルのマダイ漁獲量は、実はよくわかっていないのです。

漁獲量がわからないという事実は、マダイに限ったことではありません。遊漁船へのアンケート調査から、遊漁船は多種多様な魚を遊漁の対象に漁獲していることがわりましたが、その量はわかりません。プレジャーボートも様々な魚を漁獲していますが、その量はわかりません。最近では、漁業を対象とした公的な漁獲統計でさえ、関与する漁業者が少なく、個人が特定されるような場合には、個人情報保守の観点から漁獲量が公開されない場合もあります。さらには、密漁や海上での投棄魚などの問題もあります。

水産資源の量などを推定するためには、漁獲量が最も重要なデータであり、このデータに、漁獲魚の大きさや、操業した船の数や操業時間などの漁獲努力量を考慮して、資源の大小や増減を推測しています。そして、それを基礎としてその魚介類の資源を維持・増大させ、将来に亘って漁業を継続させていく施策が行なわれています。

その基本になる漁獲量が実はよくわからないことは、もどかしい限りです。マダイのように、資源を増やすための施策が行なわれている魚種では、施策の効果を判定するために真実の漁獲量を知る必要があります。また、資源量が少なく、地域間の交流も少ないような魚介類では、正確な漁獲量が把握できないために、必要な研究や対策ができない場合もありえると思われます。人の目に触れない海の中の刻一刻と変化すると思われる真の資源量を把握することは不可能だろうと思います。しかし、水産資源の研究では、様々な手法で出来る限り正確に漁獲量を把握することが求められるでしょう。

（海野幸雄）